

平成 28 年度
埋蔵文化財調査士補
資格試験
筆記問題答案用紙
(Ⅱ小論文)

【Ⅱ】 次の設問から 2 問を選び 答案用紙に選択した問題番号を記入の上、
それぞれ 400 字以内で述べなさい。(横書きで記述すること)

- ① 発掘調査を担当する者に求められる要件をできるだけあげよ。
- ② 大阪府陶邑古窯跡群の調査と考古学研究上に果たした大きな役割について記述せよ。
- ③ 近世考古学が周知されるまでの過程を述べなさい。

受験番号	氏 名	Ⅱ	
B-			

試験日：平成 28 年 8 月 27 日 (土)
会場：東京御茶ノ水「連合会館」

公 益 社 団 法 人



日本文化財保護協会

【Ⅱ】 次の設問から2問を選び、400字以内で述べなさい。(横書きで記述すること)

問 1

- ① 調査担当者に求められる要件を4点あげよ。
- ② 「調査仕様書」の7項目のうち現場担当者に関係する4項目をあげよ。

【解答例】

- ① 調査担当者に求められる要件4点
 - ・ 発掘調査を行なううえで必要な考古学・歴史学の知識
 - ・ 実際発掘調査を行なう技術・能力
 - ・ 埋蔵文化財行政に関する基礎的な知識
 - ・ 埋蔵文化財の地域性や時代・種類に関する知識・技術
- ② 「調査仕様書」の7項目のうち現場担当者に関係する4項目
 - ・ 発掘作業の方法（表土・遺物包含層掘削、遺構検出・掘削等の工程と内容）
 - ・ 整理作業の方法（出土品の洗浄・実測・復元・写真撮影等の工程と内容）
 - ・ 各工程に必要な記録類とその作成方法
 - ・ 発掘調査成果の公開（現地説明会等の実施、発掘調査報告書の作成・刊行等）

100 (字)

200

300

400

問2 大阪府陶邑古窯跡群の調査と考古学研究上に果たした大きな役割について記述せよ。

【解答例】

大阪府の阪南丘陵にある須恵器窯跡群。東西 15 km、南北 9 kmに及ぶ範囲に約 1 千基をこえる窯跡が存在した。1961 年（昭和 36）以来、大阪府の泉北ニュータウン建設に伴い、発掘調査が実施された。これらによって、5～10 世紀の須恵器窯跡約 500 基、古墳・集落跡・火葬墓などが発見された。数多く調査された須恵器窯からは時期の連続する多量の須恵器が出土したことから、これらを分析することによって変遷が明らかにされた。それまでは古墳出土の須恵器を対象とした編年研究を、1 窯跡出土という生産地編年ができることとなり、いっきに正確さを増したことになった。その結果 5 世紀から 8 世紀までの須恵器編年（陶邑編年）が確立し、とくに古墳時代では古墳や集落遺跡の時期区分や年代決定に大きな役割を果たすようになった。

陶邑窯は畿内王権の独占的な操業で、生産須恵器も王権の管理で畿内中央はもとより日本各地に供給されていた。その範囲は東北地方から九州地方にまでおよんでいる。このことは、それらの須恵器製品を受容した地域に、陶邑で確立した須恵器編年がそのまま適用できることを意味するのだ。中央から遠い地方には、編年の指標となる資料が少なく、年代を決める手がかりはほとんどない。そこに出土した陶邑産須恵器は編年の定点となり、年代をも付与できる貴重な資料となったのである。もちろん当時、中央王権の独占品であった須恵器は宝器に近い品物であり、この所有は権威を高めたことは疑いない。陶邑窯の生産と広域供給は、7 世紀に入ると各地に出現した新たな地方窯の操業によって、縮小されていく。そして 8 世紀には陶邑窯自体も畿内の 1 地方窯となっていくのである。

100（字）

200

300

400

問 3 近世考古学が周知されるまでの過程を述べなさい。

【解答例】

明治の日本考古学の黎明期では、江戸時代の古物趣味の伝統が残り、かつ学際が不確定であったために、近世の遺構や遺物もしばしば取り上げられていた。しかし、ヨーロッパの考古学方法論を伝えた浜田耕作は、考古学が取り扱う時間的な範囲を、人類の出現以後現代に至るすべてとした一方で、考古学が対象とすべき主な時代を、人類の物質的な遺物があって文献がない時代、日本ではおおむね奈良時代以前とした。これにより、近世は考古学の主流から除外された。戦後も皇国史観への反動から、学界の関心が原始古代に偏重し、近世研究の停滞は続いた。1969年に、中川成夫・加藤晋平によって「近世考古学」が提唱され、その後、国土開発に起因する開発事前の発掘調査が盛行、副次的にはあるが近世遺跡の発掘事例が増加していった。80年代に入ると、大規模な近世遺跡の発掘調査・成果が続き、研究者人口も増加、ようやく学界・社会に周知されるに至った。

100 (字)

200

300

400